



## 6年生を送る会の意味

3月1日（金）に「6年生を送る会」を実施しました。

これまでも、5年生が主になって会の企画、運営を行うため、「5年生が最高学年としての自覚を育む会」でもあります。特に今年度の会は、5年生が早くから考え、企画したものを各学年に依頼し創り上げた子ども主体の会となりました。どの学年も、「6年生に喜んでもらおう」という気持ちがよくわかる出しものでした。企画運営の5年生は、6年生の思い出を1年生から劇にして笑いをとっていました。6年生は、学芸会で演じた「アニー」の中の一曲をすてきな歌声で披露してくれ、どの学年も真剣に聴き入っていました。中でも一番感動的だったのは、最後にみんなで歌った「ビリーブ」です。全校の声の一つになって、本当に心が満たされていくのがよくわかりました。中には涙する子もいて、とても心温まる会だったと思います。自分たちで会を創り上げた子どもたちを誇りに思います。特に、主体的に動くことのできた5年生には感心しました。

常々「子どもが自分たちで考え、準備し、運営できるようになってほしい」と思っています。しかし、実現するには、多くのクリアすべき問題があります。子ども主体で創り上げるためには、時間がかかります。また、大人が見栄えを気にすることも深くかかわってきます。例えば、大人が考えて、子どもたちに指示して創り上げれば、時間短縮で見栄え良いものにすることができます。しかし、それでは子どもたちが達成感や成就感を味わうことができません。今回は、子どもたちに考えさせるために早めにスタートし、時間をかけています。子どもたちが考えた案を、教師と子どもたちで練り上げ、練習をしていきます。時には、考えたようにいかない事態も起こります。そこで、子どもたちが話し合い、折り合いをつけながら進め、最終的に目的である「6年生に楽しんでもらう」が達成できたとしたら、とても多くの生きた学びをすることができます。その学びを受けて、一回りも二回りも成長した子どもたちに出会えることでしょうか。そんな子どもたちは、「次はどんなことをしようか」と自分たちで考えられる子どもたちになっていくと期待できます。大人が手や口を出しすぎて、子どもたちの伸びる力をさえぎることなく大切にしていって、子どもたち自身の力で成長できるようにしていきたいです。ご家庭でも、ぜひ、子どもたちが主体的に活動できる場を設けていただきたいと思います。

## 豊坂保育園年長さんが豊坂小へやって来た！

3月4日（月）の2時間目に豊坂保育園の年長さんが1年3組での国語の授業のまとめに参加するために来てくれました。1年3組の子どもたちは、1年間の小学校生活で紹介したいものを決め、ペアの子に語っていました。年長さんを自分の椅子に座らせ、対面式で語っている様子は「2年生のお兄さん、お姉さん」でした。紹介を終えたら、手をつないで外に行き、みんなでドッジボールを楽しんでいました。年長さんたちも小学校の雰囲気分かり、初めは緊張していましたが、帰るころには「あれ、1年生？」と見誤るくらいなじんでいました。こうした交流は、今後も続けていきたいと思っています。

来てくれた年長さんは、1か月後、1年生として入学します。楽しみです。